

生、死 そしてフナ

サージ・カヒリ・キング

あらゆる時代を通して哲学者、科学者、神学者、そして物事の原因や理由について立ち止まって考えたことがある全ての人は、生と死という経験と意味について考えたことがあるでしょう。

不条理主義者(Absurdist)は、生と死というのは無意味で、死は起こるまで無視し続けるのが、もしまだ生きているのなら、たちどころに無視するのが、最善であると決めています。

抵抗主義者(Resister)は、生を良く、死を悪くみなし、生の質や死の願望を省みずに、生を引き伸ばす為には出来る限りをします。

超越主義者(Beyonder)は、生は与えられた土俵であると述べます。もし規則に従うならば、死後違ったより良い生を得ることが出来、もし規則を破るならば、死後違ったより悪い生を得ることになるのです。

輪廻主義者(Cyclist)は、人の本質は、恵みや個人の努力、または次第に進化して、もう一度生が必要でなくなるまで、繰り返し生と死を経験すること、だと考えます。

勿論人間はとても創造的なので、上記以外の変形された、また異なる考え方があります。ここにフナの原則から引き出された見方を紹介しましょう。’

第一に、生と死は経験です。意味や結果は、誰かがあなたに教えたことや、あなた自身の結論として、あなた自身によって決定されます。生と死が実際にはどのようなものであれ、それらについてのあなたの考え方が、関連した思考と行動を支配します。

第二に、フナでは存在は永遠だとみなしますので、生と死、そして時と空間とは異なる種類の経験に対する名称にすぎないのです。

第三に、信念とは、ある特定の経験をして、他の経験をしない様、あなたの感覚や期待を組織化する単なる一つの方法です。

第四に、すべての経験は現時点で起こっています。時間は単なる信念の一つです。過去の人々にとって現在あなたはまだ生まれていないのです。未来の人々にとってあなたは、現在既に死んでいるのです。

第五に、生と死は、私たちが愛と称することを成就しようとする衝動の一部です。愛は愛し、愛される者を変えます。変化なしでは何も存在しません。

第六に、生と死の力は内から出ます。個性や肉体からではなく、私たちの不滅な霊的源からです。“外の”要因は人生の時間配分やあり方に影響を与えるでしょうが、その経験を生じる原因ではありません。

第七に、誰かが生と死について何を語ったとしても、あなたがどう考えるか次第です。あなたにとって意味を有する、それらの経験を処理するのに役立つ、どのような見方や信念を持つかを決める権利はあなたが持っています。

翻訳 M. Hayashi (2005)

Copyright by Aloha International 2001